

シリーズ① 学力向上への道

わが校の学力向上の取り組みについて



大山中学校

1 落ち着いてのびのびと学べる環境づくり

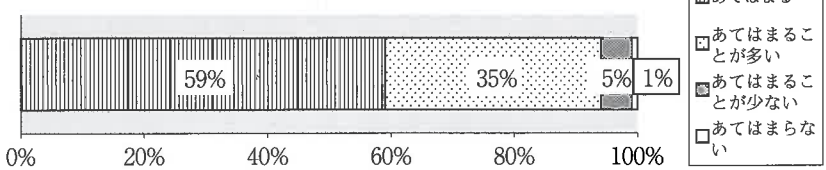
生徒同士の間関係が良好であることは、学力向上の基盤と捉えています。そのため全ての教育活動を通じて人権教育に力を入れています。昨年度の取り組みも学年・学校行事を通して、学級集団づくりに力を注いできました。特に、体育祭や文化祭などの行事では、仲間意識を育て、仲間づくりに発展していくことを目標にしました。そして、行事を振り返ることによって、そのつながりを普段の学級での生活に生かすよう



▲全校合唱

表1

仲間を大切に思いやりを持って接することができた。【生徒回答】



見、早期対応にも心がけています。生徒のアンケート結果（表1）を見て、「学級活動や班活動の中で、互いに協力し助け合うことができた」「学

にしました。また、生徒会の活動の中にも互いの人権意識を高めようとする取り組みを取り入れ、生徒同士が、互いの良さに気づき合う場面を設定しました。さらに、教育相談や生徒アンケートを実施するなど、いじめの未然防止や早期発見

2 人生をより深く生きる力を育てる

級や部活動での仲間を大切に、思いやりを持って接することができた」の項目では、いずれも9割近い生徒が肯定的な回答をしています。この結果からも現在の学校生活では、概ね生徒同士の間関係が良好であることが伺えます。

毎日10分間の「朝読書」を4年間続けています。最近は、担任以外の教員が教室に入ってきて、生徒たちは読書に集中し続けています。文部科学省のリーフレットによると、本と触れ合うことによって、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力が豊かになってくるようです。初めは、物語の主人公と自分を重ねて読書をしていた生徒も、しだいに主人公と自分を分けて物語を客観的に読めるようになり、生徒は抽象的に物を考える力や感動する力など、人間としてよりよく生きるための



▲本の読み聞かせ

かなり少ないという結果が出ています。その結果を受けて、平成22年度から「学習の見通しを立てて予習をしたり、学習を振り返って復習をしたりする家庭での学習習慣を身に付けること」によって、学力の向上を図る」ことを目的に、家庭と連携しながら次のような家庭学習強化月間の取り組みを年3回（5月、10月、2月）行っています。

【取り組みの概要】

- ①1か月間、家庭での学習計画を立て、家庭での学習時間を「毎日の記録」に書き、担任に提出する。
- ②家庭学習強化月間終了後、1か月の家庭学習の合計時間を「毎日の記録」に書く。
- ③自己評価を行うとともに、保護者からの評価をもらう。（家庭学習強化月間終了後、各学級の1日の家庭学習平均時間や自己評価、保護者からの評価を学校便りで発信しています。）

【保護者の感想から】

○家庭学習、塾と頑張っていました。課題を早めに終わらせていたようで、テスト勉強をする時間に余裕があったようです。毎日の家庭学習を習慣化して、次回も頑張ってください。

3 家庭学習の定着と推進

大山中学校は、全国学力・学習状況調査や標準学力調査の質問紙から、家庭学習の時間が全国や鳥取県の平均より